

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活動法人 おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム あつとホーム黒髪		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町6515-27		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいた介護に特に力を入れています。利用者様が「自分の家族だったら」という考えのもと、してほしい事、また逆にしてほしくない事を常に考えながらケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは理念に基づいたケアを念頭に、職員が入居者へのケアで迷った時には理念を振り返り、もし、「自分の家族だったら」を考えながら支援している。職員自らが入居したいホームを目指し、どのような状況であっても理念を追求し、「今、自分が入居したいホームであるか」と職員へ問いかけ、また、ミーティング後には理念を唱和し周知を図っている。管理者は入居者への言葉遣いや対応方法に関しても理念に照らして考えるよう職員に指導や助言を行い、より良いケアサービスの提供に取り組んでいる。コロナ禍で地域交流や外出といった外部との接触を自粛している現状にあるが、ホーム内でのレクリエーションや入居者の趣味活動を充実させたり、近隣へ花見に行くなどできる範囲で可能な支援を行っている。職員の資格取得の受講費用のバックアップや休暇取得への配慮など、職員にとって働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。家族の満足度も高く、気兼ねなく訪問しやすいとの家族の声からも「あつとホーム」な事業所であることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループホームあつとホーム黒髪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて職員が共感し実際に職員の親をホームに入所させている。	職員が入職時における面接の際にはホームの理念を説明し、同意を得た上で採用している。職員や訪問者も目に留まる場所に理念を掲示し、日々のミーティング後に職員が理念唱和して意識を高めている。職員が入居者へのケアで迷った時には理念を振り返り、もし、「自分の家族だったら」を考えながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルスで地域とのつながりが中断しているが、以前はマーじゃん等地域の方をお呼びし、当ホームで交流をしていた。	現在、コロナ禍により地域との交流は自粛している。コロナ禍以前はホームへボランティアの方や家族が訪問し、入居者と一緒に麻雀や将棋をして地域との交流を行っていた。尚、ホームの近隣にある小学生と手紙交換を行ったり、近隣住民とのあいさつや防災協力を仰ぐなど可能な範囲で地域との付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルスで地域の人々に向けて発信することはできないが2ヶ月に1回の運営推進会議で困っていることなど意見などだし、それについて助言を頂き地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回民生委員、包括、家族代表、利用者代表と集まり意見を出したりそれに対して色々な考えを聞きサービス向上につなげている。	令和2年度は運営推進会議の開催ができていない状況であったが、今年度は書面会議に実施している。会議録にはホームの現状報告のほかヒヤリハット等を載せ運営推進会議の構成メンバーへ報告している。地域包括支援センター職員よりヒヤリハット事故等に対するホームでの対策状況を説明するなど構成メンバーより電話やメールにて意見や助言を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとケアサービスなどの取り組みを伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年度は特にコロナ対策や対応法について佐世保市長寿社会課、保健所の担当者より助言を得、コロナ予防方法など様々な情報収集に取り組み、行政との連携で得たものが多い年度となった。また、必要に応じて生活保護課や社会福祉協議会、地域包括支援センターといった関係機関とも連携できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも利用者様が外の空気や景色を見て頂くように玄関の施錠はしていません。スタッフも一緒に外に出てお話をしたりなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	訪問調査日現在、身体拘束を行っている入居者はいない。3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催するとともに、身体拘束、虐待に関する研修や勉強会を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員数の減少やコロナ禍の影響により入居者の動きの察知を補完するためセンサーを導入している。現在、ホームでは新たに入職した職員がおり、職員研修を充実させていく意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング・夜勤者からの申し送り等、日々虐待が起きないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらについて学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時入院時など特に不安になられるような場合十分な説明を行っている。また普段も家族様に不安などないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様においては普段の生活の中で聞いたり家族様には面会時などに尋ねている。そしてそれを反映している。	主任を中心として家族へ電話連絡し、入居者の情報交換のほか意見や要望を聞くようにしている。家族へ定期的に送付する「あっとホーム便り」には入居者の写真を載せ家族へホームでの生活状況の報告を行っている。要望をよく聞いてもらえることや気兼ねなく訪問しやすいとの家族の声があり、家族の満足度も高い。	現在、家族に対しLINEを活用した情報提供ができるようにしているが、面会自粛等の状況や家族の要望に応じて、例えば、家族と日時を設定してLINEのビデオ通話やZOOMの活用などにより入居者の顔を見ながら会話できるよう工夫するなど、コロナ禍を踏まえた今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで運営に関する意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	毎日のミーティングを通じて管理者や主任が職員へ入居者のケアの相談や認知症の症状に対して助言し、希望時には管理者との個別面談も行っている。職員の資格取得の受講費用のバックアップや休暇取得への配慮など、職員にとって働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3年前よりキャリアパスを導入し年に2回職員の労働基準を確認しやりがいを持てるように職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のミーティングで困ったこと技術面など特に一人一人の力量を把握しミニ勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで今は外部との交流が減り、相互の訪問の活動ができていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所時は不安になっておられるため要望などお聞きしている。常日頃から利用者様と寄り添いながら笑顔がある関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族様の要望などを聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をし必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人様を介護される一方の立場におかず暮らしを共にする者同士できる範囲で手作業などをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様とご家族の絆を大切に、本人様の支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで大切にされてこられた馴染みの方に来所頂き話をされたり将棋をされたり関係が途切れないように支援に努めている。	現在、コロナ禍により感染状況に応じて面会制限を設けている。馴染みの友人や知人などと手紙を通じた交流や入居者に携帯電話を所持してもらい関係を継続できるよう配慮するなど馴染みの関係性が途切れないよう支援に努めている。また、入居後も引き続き入居前から受診している医療機関や馴染みの美容室を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に入りお互いの会話など支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの利用者様はホームにて亡くなられるまで利用されているが、退所された利用者様には、生活が落ち着かれるまで定期的に連絡・訪問をしてフォローを行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思い等意向の把握に全職員努めている。	現在の入居者は発語ができる方が多く、職員は入居者の意向を把握した情報をクラウド上に記録として保管し、ミーティング等で全職員での情報共有を行っている。タブレットを使用し、写真での記録を残す事で視覚的にも情報が共有できるよう工夫している。家族からも入居者の情報を聞いてケアの実践に活かし、入居者本位の生活ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は特に家族様にお聞きしたり、生活歴、嗜好これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは一人一人の一日の過ごし方、心身の状態、残存機能、など現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナウィルス流行前は本人・家族とスタッフとで担当者会議を行って意見を反映し介護計画を作成していた。現在は電話にて確認を行っている。	入居者毎の担当職員制を採用し、担当職員との実践状況の確認のもと管理者兼計画作成担当者を中心に画像や数値化した入居者情報と家族の意向を踏まえて介護計画を立案している。コロナ禍で外出の自粛により、ホーム内のレクリエーションを充実させ、介護計画に反映するなど、現状に即した入居者個々の目標を設定し、ケアの実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでの記録を導入し、日々の様子を写真にも収める事ができるようになり、より情報の共有がしやすくなった。ご家族への説明も円滑に行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響によりご家族の通院介助ができなくなったので、職員が代わりに遠方の通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の児童との手紙のやりとりを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回地域の医療機関による往診および、定期的な歯科医の往診をお願いしている。その他本人及び家族の希望する医療機関を尊重し、それぞれの受診の介助・支援をしている。	入居前のかかりつけ医を継続できるよう配慮している。協力医の訪問診療が毎週木曜日に行われており、入居者、家族の安心に繋がっている。眼科等の専門医療機関への受診は家族が受診に同行することを基本としているが、状況に応じて職員も受診に同行している。協力医療機関の医師や看護師と連携し、入居者の体調不良時には助言を得ながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報は職場の看護職にはその都度周知する環境を作っている。主治医の医療機関の看護師とも適宜連絡をとり情報共有につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には職員同行による情報提供・および看護サマリーの提供を行っている。入院時も医療機関と情報交換につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議を行い、主治医の意見・家族の意向を徴収し事業所ができる事を十分に説明して共に支援に取り組んでいる。	ホームでは看取り支援を行っており、入居時に入居者及び家族へホームの方針を説明し、更に看取り期にはあらかじめ支援方針を医師を交えて家族へ説明し同意を得ている。尚、ホームでは新たに入職した職員がおり、管理者は現状を踏まえた看取り支援方法を検討するとともに、看取り支援の研修実施や看取り支援後の職員の精神的負担の軽減方法を充実させていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティングなどで、急変時の勉強をしている。また実技にて実践力をみにつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対する訓練は定期的に行っている。地震や水害等の対応については、計画作成まではしたもの実際に訓練にまで至っていない。	全職員と入居者が避難訓練に参加し取り組んでいる。ホームでは新たに入職した職員のうち3名は消火器操作訓練が未経験である為、管理者は今後該当者を優先して訓練に参加させる意向である。通報装置の配線に問題があるため、消防署からの折り返しの返信が繋がらず、原因も不明で、NTT、点検業者においても解決策がないとの回答であった。尚、操作方法をホーム側が認識できている場合は特に問題にはならないとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いや呼び名(ニックネームなど)を職員同士で見直しながら、自分の親が言われたとしたら気分がよくない事は改善を行った。	管理者は入居者への言葉遣いや対応方法に関して理念に照らして考えるよう職員へ指導や助言を行い、より良いケアサービスの提供に取り組んでいる。特に入居者への言葉遣いは研修テーマとして取り組み、事例検討を行うなど入居者の尊厳の保持、プライバシーの確保に努めている。便りに掲載する写真等は家族へあらかじめ同意を得た上で掲載している。職員は業務の中で知り得た個人情報厳守することを入職時に誓約している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑談を通して本人の意向を聞いたり、選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のミーティングにて、一人一人のペース・希望を確認し、本人の希望にそったすごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後などに以前使われていたお気に入りの化粧水を使用する機会を設けている。男性利用者には毎日のひげそりのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、季節にあったメニューを提供している。毎回利用者とスタッフと一緒に片付けを行っている。	現在、食事は外部の業者に委託している。必要に応じてホームでキザミ食やミキサー食に加工して提供している。入居者の残存能力に応じて、調理や食事の準備、後片付けなどを一緒に行っている。ホームでは敬老会などの行事には特別食を出している。今後、管理者は職員が充足したら「手作りの日」を設けてより食事を楽しめるよう支援していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット記録を利用して、リアルタイムでの水分摂取量を確認し、不足している方には水分補給を促すなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいと口腔体操を行っている。食後はひとりひとり口腔ケアを実施し、口腔内に残渣物が残っていないか確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日日中や夜間の時間帯に利用者様一人一人のADL・残存機能などに合わせた排泄介助や支援・見守り等を行っている。	入居者の状態に合わせて職員が声掛けして排泄誘導し、トイレでの自立した排泄意欲の向上に繋げている。入居者の身体能力に配慮し、自身で排泄が行えるよう手すりの高さを工夫し設置している。バット等使用する場合はバットの大きさや種類を検討し、家族の負担感の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がある食事やおやつを提供し健康体操を実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状態を見ながらその方の希望やタイミングをみて入浴が楽しめるように支援をしている。	入浴日は週2回(火曜・金曜)の午前中を基本としているが、入居者の希望に応じて、入浴日以外も入浴できるようにしている。湯船に浸かる際や重度の方には職員2人態勢で支援し、必要に応じてスライドボードを用いて介助するなど、職員の負担も考慮しながら入居者が安心して入浴できるようにしている。入浴を拒否する方には無理強いせず別日に入浴できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで休まれたり居室に行かれたり思いの形で過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が飲まれている薬を理解し副作用などを把握し服薬の支援と症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人にあったレクリエーションで貼り絵や折り紙をされている。また茶碗洗いや洗濯物たたみを役割を持って頂いている。またスタッフと一緒にホームの周辺を散歩したりと気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナのため外出は難しいですが、それまではドライブに出かけたり買い物に行かれたりまた家族の方と外出したりと支援をしていた。	現在、コロナ禍により外出を自粛しているが、好天時には個別に花見に行ったり、近隣の畑へ散歩に行くなど気分転換を図っている。コロナ禍前は病院受診のタイミングを利用して買い物に行ったり、入居者が以前住んでいた家を見に行くなどの外出支援に取り組んでいた。今後、管理者はコロナ禍収束後には家族も交えたドライブやイベントなどの交流の機会を増やして行く意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様でお金の管理ができればおられず支援ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お盆や正月に絵葉書や年賀状をだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の飾り物を、リビングにはレクレーションで作った作品を、利用者様が不快にならないような空間作りを心がけている。	コロナ禍であることを踏まえ、玄関には消毒液と非接触型体温測定機を設置し、訪問者にはサインを記入してもらい管理している。ホーム内は適宜換気と清掃を実施し、職員の朝夕の検温と体調管理を徹底し、新型コロナウイルス感染症の対策に努めている。季節の飾り物を入居者と職員が一緒に制作して共用空間の壁面に貼るなど、入居者の楽しみに繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	難聴や意思疎通が難しい利用者様にはスタッフが架け橋になり独りにならないように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた家具や好みの洋服、雑貨、本、など本人様が居心地よく過ごして頂くように工夫をしている。	居室は1階と2階にあり、タイルカーペットとフローリングの2種類となっている。居室への持ち込み品は火気類や危険物以外は特に制限を設けておらず、位牌や仏壇などのほかテレビや親族の写真、携帯電話など入居者にとって馴染みの深いものが持ち込まれており、自宅に近い環境が作られ、入居者は居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段が難しい方はエレベーターを設置している。廊下も手摺りを設け、安全、かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		